

令和5年度
事務事業評価シート【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	02	01	06	124170	イーハトーブ花巻応援寄附金推進事業費			
総合計画	分野	05	行政経営	政策	02 持続可能で健全な財政経営			
	施策	02	自主財源の確保					
目的	自主財源の確保と市の地場産品のPR・受注拡大を図るため、ふるさと納税制度を推進し、寄附受入れに係る事務処理を行う。							
対象	イーハトーブ花巻応援寄附金寄附者							
意図	寄附額（自主財源）が増加し、地場産品のPRや花巻市の知名度が向上する。							
事業概要	○寄附手続き 532,392千円 寄附の受付に係る事務処理費用（サイト利用料、決済手数料） ○寄附者への返礼品贈呈 3,306,392千円 花巻市の地場産品等を寄附者へ返礼品として贈呈（返礼品調達費、返礼品送料） ○寄附額の拡充を図るための情報発信 10,744千円 ふるさと納税にかかるイベント等への出展、インターネット広告の掲出 ○ふるさと納税取扱事務の外部委託 526,310千円 返礼品受発注事務等の外部委託 ○その他事務費 220,424千円 人件費、旅費、ワンストップ業務代行サービス、コールセンター業務代行サービス等 ○ウクライナ人道危機救援金への寄付 4,137千円							
市民参画の有無	対象外							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会		事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標				単位	区分	R04	R05	R06
1	PR回数		回	計画	10.00	10.00		
				実績	7.00	12.00		
2				計画				
				実績				
3				計画				
				実績				
成果指標				単位	区分	R04	R05	R06
1	寄附件数		件	目標	154,000.0	220,000.0		
				実績	319,759.0	610,671.0		
2	寄附金額		千円	目標	2,000,000	3,000,000		
				実績	4,608,477	9,034,270		
3				目標				
				実績				
成果指標の達成度		○	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
本市のふるさと納税が好調な要因としては、ふるさと納税の認知度向上により全国的に寄附額が増加したこと、豊富な種類の返礼品を出品できたこと、希望の多い返礼品にあっても事業者のご協力を得て切れ目なく安定して提供できたことなど、花巻市の返礼品が高く評価されたことによるもの、と分析している。 返礼品は、寄附者の希望に添って、安定的に継続して提供可能なものを登録し、精肉・野菜・果物などは、同じ品目であっても寄附者の状況に応じ、重さや個数を選択することができるようバリエーションを持たせているほか、同じ品目を定期的に配送する定期便の造成、ポータルサイトにおける返礼品の見せ方の工夫、季節に応じたプロモーション活動、メールマガジンを通じた返礼品の紹介などに取り組んできた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	ふるさと納税制度は所得税及び住民税からの寄附金控除の仕組みを利用した、大都市圏から地方への還流を促す制度であり、行政が関与することが妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	PR活動の強化による花巻市の知名度向上の取り組みや、返礼品の充実を一層図ることにより、寄附件数及び寄附金額の一層の増が見込まれる。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業費については、寄附件数に応じた規模の範囲内での事業実施となり、削減余地はない。人件費についても、寄附件数に対して、現行の人数が適正規模であることから、削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	○ どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	他自治体の実施状況や総務省通知の内容に基づき、適正な範囲で実施している。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	○ 適正である	
総合評価	今年度の振り返り	令和5年度の寄附額は、4年度に比べると、大幅に増加しており、総務省の告示の改正などによるふるさと納税制度の見直しがあった中、返礼品事業者の対応や、返礼品を切れ目なく、安定的に供給していただいている結果だと捉えている。
	次年度に向けて	引き続き、ふるさと納税のプロモーションや見せ方の工夫を図りつつ、コロナ禍から人流が復活している今、温泉宿泊券や体験型の返礼品の発掘に引き続き努めるとともに、総務省が定めるルールへの適切な対応を図っていく。